



グリーンハウスは旧藤澤カントリー倶楽部のクラブハウスとして昭和7年（1932）3月に藤澤町の長工務店により竣工した地上3階、地下1階の鉄筋コンクリート造り、スパニッシュ様式の建物で関東地方に現存する最大級のスパニッシュ建築とされています。

設計は日本の建築史上著名なアントニン・レーモンド氏のレーモンド設計事務所で、担当は杉山雅則氏。当時レーモンドはモダニズム建築の旗手と云われていましたが、この建物は施主の要望で昭和初期に日本で流行していたスパニッシュ様式となりました。1階は玄関、受付事務室、ロッカールーム、シャワールーム、テラスで、2階は食堂、調理室、広いラウンジ・バーカウンター、バー（カード）ルームに南面と西面に広いバルコニーが設けられています。3階は当初宿泊室として造られましたが、その後皇族及び婦人用の更衣室に利用されていた模様です。緑色のスペイン瓦が用いられていたため、戦後は通称“グリーンハウス”と呼ばれるようになりました。太平洋戦争最中の昭和18年（1943）に横須賀海軍に強制徴用され、藤澤海軍航空隊となり、ゴルフ場に予科練の兵舎が建設され、グリーンハウスは司令部として使用されました。戦後、米軍が接収し2年間駐留後は引揚者住宅に転用され12家族、35名が居住。昭和28年（1953）9月に藤沢市から神奈川県に移管。県の総合運動場管理事務所に使用され昭和35年～43年（1960～68）はサッカー日本代表や重量挙げの合宿所となり、ラウンジはトレーニングルームとして使用されました。昭和43年（1968）6月県立体育センター開設に伴い第2合宿所となり、昭和52年（1977）には玉屋食堂が体育センター本館から移転しラウンジは食堂となりました。しかし昭和63年（1988）8月に給排水、電気系統の老朽化のため合宿所機能は停止、以後食堂のみの利用となりました。現在、県立体育センター等再整備事業の一環で改修工事のため平成29年（2017）1月末で閉鎖、2020年4月から供用開始予定。

（2018年9月現在）